

日本で一番「少年の日の思い出」の魅力について語れる中学1年生になろう

本単元で育成する資質・能力

「主体性」「課題解決力（探求力）」「振り返り力（メタ認知）」

- 1 日 時 平成30年11月14日（水）6校時（14：30～15：20）
場 所 図書室
- 2 学年・組 第1学年A組（男子17名，女子9名，計26名）

3 単元観

本単元は、学習指導要領「（B）書くこと（1）ウ・オ」「（C）読むこと（1）ウ・エ・オ」「知識及び技能（3）我が国の言語文化に関する事項（1）イ（イ）（ウ）」と対応して設定されている。

第1学年の総まとめの段階であることから、これまで学んだことを生かして、文学作品と向き合いながら、登場人物のものの見方や考え方、感じ方と関連させて、自分の生き方を振り返らせる読み方を体験させることができる。

さらに、登場人物と自分とを比較しながら読み、それぞれを相対化する楽しさに気づかせることも、本単元のねらいの一つである。

また、文学作品における系統上の位置付けとしては、小学校高学年で「伝記を読み、自分の生き方について考える」を既習している。そのため、本学年では「心情や情景描写に着目して読み取る」ことにも重点を置いている。

加えて、第2学年では「人物の相関関係を捉える」、第3学年では「物語や小説を批評する」という学びの視点が設定されているため、物語を実体験と結びつけて語ることができるような、単元を貫く言語活動への着手も図りたい。

4 生徒観

本学級の生徒は、グループでの話し合い活動や、生徒主体の授業運営が習慣化されている。しかしその一方で、恒常化した学習に対する意欲の低下も見られる。

1学期末に実施した、授業評価アンケートにおいて、「授業は、よく分かります。」に対する肯定的回答は、全学年で最高数であるにもかかわらず、「授業では、課題を解決するために、どのような方法だと解決することができるかを考えています。」という情報収集の観点は32%、「授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見つれたり（関係付け）して、何が分かるのかを考えています。」という整理分析の観点については28%と、肯定的回答が全学年で最低数であった。このことから、「分かる」の定義が浅いことが見受けられる。

過年度（平成29年度）のデータではあるが、基礎と活用について比較すると、中1が基礎（全国比+6.3pt）、活用（全国比+1.8pt）。中2が基礎（全国比-4.4pt）、活用（全国比-5.8pt）。中3が基礎（全国比+0.6pt）、活用（全国比-1.2pt）である。（標準学力調査）

つまり、基礎・基本の定着に比べて、活用（思考力・判断力・表現力）の定着が低いことが、前述の根拠となる。

5 指導観

前述の通り、「活用」の部分である、目標達成のための情報収集や、情報の整理分析について課題が見られる。そのため、「分かる」の定義をさらに深いものにし、学びの幅を広げたい。

これまで同様、生徒主体の授業運営で教材を読み進め、基礎・基本の定着を図る。その上で、生徒の提示した疑問や課題を解決に導くことで、主体的な学びを実現するとともに、本教材を学習する意義を見出したい。

さらに、「少年の日の思い出」は、1947年に高橋健二訳のものが日本の国定教科書に掲載されて以来、およそ70年も読まれ続けている。現在、採択されている検定教科書すべてに掲載されており、日本で最も多くの中学生に読まれた外国の文学作品と言っても過言ではない。

そこで、表題として「日本で一番『少年の日の思い出』について語れる中学1年生になろう」を提示し、生徒の知的好奇心を向上させることをねらいとしたい。これを実現させるためには、教科書の枠を超えての情報収集や情報の整理が必要である。

また、本時は、エドガー・戴尔著の「学習指導における聴視覚的方法（1946）」で提唱された、「経験の円錐」が根源とされる「ラーニングピラミッド」による学習定着率を参考としており、調べたことを他者に伝える（インプット→アウトプット）という学習の流れを重視させたい。

6 単元の目標と評価規準

〈 単元の目標 〉

作品や生活と向き合いながら、ものの見方を深めることができる。
多様な方法で情報を集め、話すことに生かすことができる。

〈 評価規準 〉

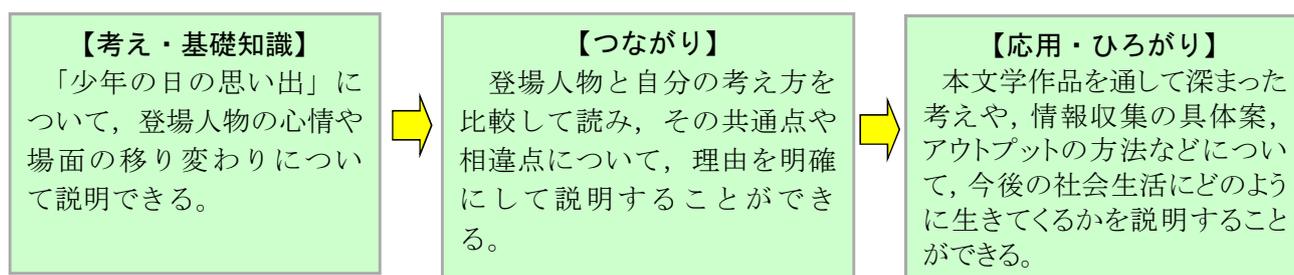
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
①作品を読んで考えたことを書いたり発表したりしようとしている。 ②友だちの考えを自分の考えと照らして聞こうとしている。	①時間・場所・出来事などに着目して作品の構成や展開を捉え、本文に即して登場人物の心情の移り変わりを読み取っている。 ②作中の人物の出来事について、自分の考えを書いたり、発表したりしている。	①作品の設定（時・場所）や登場人物の人物像を踏まえて、作品を書き換えている。	①作中で用いられている表現上の工夫や、多様な語句について理解している。

7 指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	I	C	E
主体性	・目標達成のための情報を集めようとしている。	・自分と異なる意見と向き合い、議論し、考えを深めている。	・本教材がなぜ長年に渡って教科書に掲載され続けているのか、他の文学教材と比較しながら考えることができている。
課題解決力 (探求力)	・目標達成に向けて、必要な情報は何かを考え、収集することができる。	・目標達成に向けて、集めた情報を基に対話や協議を行い、深化を図ることができる。	・目標達成に必要な情報を集め、既習事項との共通点と相違点を比較しながら読むことにより、本教材の魅力をより具体的に語るができる。
振り返り力 (メタ認知力)	・「少年の日の思い出」について、どこまで読み深めることができたかが分かっている。	・目標達成に向けてのアプローチが、日常生活でどのように活用できるかのイメージが持っている。	・本教材を通して、読み手である自分たちが何を学び、何を身につけるべきか。そしてその学びが、今後の社会生活でどのように生きてくるかを説明することができる。

【ICEモデル】



(全 13 時間)

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点				評価	
			関	読	話	知	◇評価規準	★資質・能力(評価方法)
1	課題の設定 本文を通読し、初読の感想を交流することができる。							
	<ul style="list-style-type: none"> ・本文を通読して、自分なりの感想を持つ。 ・本教材が長く読まれてきた理由について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長く教科書に掲載されているからには、何か理由があるはずだ。 	○	○			◇★教材文を何のために読むのか理解している。(行動観察)【主体性】	
<p>(単元を貫く課題)</p> <p>教材文の魅力伝えるためには、何を読み取り、どんな情報を収集し、どのような話し方で伝えれば良いののだろうかを考える。</p>								
2	情報収集① 他の文学作品とはちがう、本教材独自の場面構成を捉えることができる。							
	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の特徴について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在と過去の場面が登場しているけれど、どういった意味があるだろう。 					◇読み取りを基にして、教材文を読解している。(行動観察・プリント)	

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	主体性，課題解決力（探求力），振り返り力（メタ認知力）
教科の評価規準	作品や生活と向き合いながら，ものの見方を深めることができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

次の文は、「少年の日の思い出」についての会話です。

先輩A：「少年の日の思い出」は、いろいろと考えさせられる物語だなあ・・・。
 先輩B：やっぱり、「僕」の行動は、自分だったらどうするかというところで、意見がわかるよね。
 1年生：先輩たちの話を聞いていたら、これから勉強するのが楽しみになってきました。

先輩A：これから読んでいくんだね。わからないことがあったら何でも聞いてね。
 先輩B：僕たちはかなり長い時間をかけて学習したから、もう暗記しているぐらい詳しいよ。
 先輩A：ここだけの話、テストでもかなり高得点が狙えるところだよ。私は9■点だったかな。

1年生：先輩方、頼りになります。この作品は、約70年もずっと教科書に掲載されていて、たくさんの方が知っている知名度の高い作品なんですよ？
 先輩AB：・・・（何でこんなに詳しいんだ？）そうそう。先生が紹介されていたけど、過去の先輩方にもいろんな解釈があって、おもしろいよ。

1年生：しかも、教科書に載っているのは、高橋健二さんが訳したものだけど、岡田朝雄さんが訳したのものもあるんですよ？ もう絶版だから手に入らないのが残念・・・。
 先輩AB：・・・（何それ？）あー。岡田さんの訳ね。残念だよ。

1年生：しかも、あの肝心の台詞が、訳し方によってあんなに印象が変わるなんて・・・。
 先輩AB：・・・！？ ど、ど、どんな風になるの！？ 教えて！！

以上の会話のように、「少年の日の思い出」は、長年の間、たくさんの人に読まれてきました。したがって、教科書には載っていない（教科書を読むだけでは辿り着かない）情報がたくさんあります。

どれだけ教科書を暗記しても、どれだけテストで点数を取っても、真の学びはもっと深いところにあるのです。

そこで、全国の中学生の中で、最も「少年の日の思い出」について詳しくなり、それを語ることでできる中学1年生になりましょう。そのために情報収集を行うことと、三角ロジックを使った伝え方ができるようにしましょう。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	本教材の魅力について、自分の論を持ち、三角ロジックを駆使しながら他者に伝えることができる。（主張→理由→根拠の流れが明確である。）
2 合格	本教材の魅力を見つけ、自分なりに説明することができる。
1 乗り越えさせたい実態	本教材の魅力を見つけることができる。

8 本時の学習

(1) 本時の目標

協議を通して、「少年の日の思い出」の魅力がより伝わる話し方を理解することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意事項 ◆配慮の必要な生徒への支援	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1. 学習内容を確認する。〔5分〕			
○学習内容と目標を確認する。 ○本時の流れを知る。 【本時の教材目標・技能目標】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔教材〕 情報を基に、教材の魅力について語るができる。</p> <p>〔技能〕 協議によって、三角ロジックを駆使した話し方を理解することができる。</p> </div>	◆活動の手順を示すことで、学習の見通しを持つ。 ◆既習事項である三角ロジックについて確認する。		【思考の流れ】 「少年の日の思い出」には、たくさんの魅力があるなあ。 70年も読み続けられている物語だから、自分たちもそれを誰かに伝えていきたいなあ。 どんなに魅力を学んでも、それをうまく伝えられないと意味がないよね。 伝え方は、工夫次第で良くなるらしい。
2. 漢字の学習をする。〔5分〕			
○漢字の学習	◆スクリーンにフラッシュ映像を映し出す。		伝え方は、工夫次第で良くなるらしい。
3. 「『少年の日の思い出』紹介動画」を観ながら、話し方について議論する。〔30分〕			
○他者の話し方について、「良い点」「改善点」「改善例」について、班で議論する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが書けているね。 ・本文が引用されているね。 ・授業の学びが生かされているね。 ・表現がわかりにくい。 ・誤字脱字がある。 ○他者の話し方（映像）を聞いて、自分の話し方かどうかを鑑みる。 <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な部分を強調する話し方ができているね。 ・文章だけではわかりにくい部分が、話し方によって補足されているね。 	◇教材の魅力が伝わってくる話し方かどうか、議論によって批評する。 ◇三角ロジックを駆使しているかどうかに着目し、分析するように促す。 ◆ワークシートに沿って進めることで、批評の仕方を支援する。	◇事前撮影映像について批評し、気付いたことをワークシートにまとめることができている。 (ワークシート)	主張を説得力のあるものにするためには、理由や根拠が明確になっていないといけないね。 それを三角ロジックと言うんだ。 じゃあ、みんなが三角ロジックを駆使して伝えられているか、検証してみよう。

4. 本時のまとめをする。〔10分〕			
<p>○議論による気づきを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の原稿と映像を見ることで、魅力の伝え方の方法がわかった。 ・同じ内容でも、書き方や話し方によって、聞き手の受け取り方が変わることがわかった。 	<p>◇本時の学習を通して、教材の魅力をよりよく伝えるための話し方について、学んだこと、気付いたことを発表するよう促す。</p>		<p>★話し方のメカニズムについて、何を学んだか認識している。【ふり返り力】</p>
<p>○振り返りを行い、学びの自覚を記録する。</p>	<p>◆OPPAシート（1枚ポートフォリオ評価）を活用する。</p>		